



福井診断士会

石川会長

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は正会員数が130名を超える全国で最大規模を誇る診断士会である。会員の所属企業はセネコンやコンサルタントに限らず、自治体の技術管理者など会員の所属がユニークな点に特徴がある。役所との連携に力を入

全国最大の診断士会 メンテ会議と協定書締結

具体的には定期点検や健全度判定、措置が必要とされる道路施設の対策方針に関する指導、助言である。自治体職員研修に協力する。地元自治体を支援すること、ニーズにこたえ、コンクリート診断士の存在や技術力の認知度を高め、コンク

れ、その取り組みは全国各地の診断士会から注目を集める。福井診断士会は地域貢献活動に力を入れてい

り、その取り組みは全国各地の診断士会から注目を集める。福井診断士会は地域貢献活動に力を入れてい

リット診断士の社会的地位の向上をねらう。石川会長は診断士会の取り組みについて「自身の研鑽と地域への貢献をモットーとし、業界団体ではなく、技術者集団としての活動に主眼を置いている」と話す。下水道や農業施設など道路施設以外の構造物の維持管理への協力も行い、コンクリート診断士の価値が高まるような依頼には積極的に対応している。

また、北陸3県コンクリート診断士会での連携も強化している。2010～11年度の日

本コンクリート工学会（JCI）中部支部の助成事業として連携推進事業を行ったほか、昨年8月からJCI中部支部の調査研究事業で「北陸3県コンクリート診断士会との協働による早期劣化のコンクリート構造物の診断とその対策のための人材育成事業」を始め

た。同事業は北陸3県で深刻な早期劣化（ASRや塩害）が発生しているコンクリート構造物の調査・診断を通して、3診断士会の協働で産官学民の若手研究者や技術者の人材育成、技術継承に努めることを目的とする。さらに、金沢大学SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）北陸事業との連携で、山岳地域や海岸地域でのコンクリート構造物の調査・診断に新しい点検技術を導入し、計測技術の習得と講習の場を提供することを目的としている。

その活動達成のため、第1段階では自治体が抱える人材育成の課題の抽出、人材育成のポイントやあり方などについて検討する。その成果も踏まえて、第2段階では金沢大学SIP北陸で構築された技術の習得の場を広く提供する。実践的な技術講習を行いながら、人材育成のシステム化を模索、提案する。

4月にフォーラム

その一環として、今年4月27日に金沢市内で「これからの維持管理を担う人材をいかに育成するか」と題するフォーラムを開催する。石川会長はフォーラムについて「人材育者、若手研究者の活性化に関する取り組みを化に寄与するだろう」と期待する効果を強調した。

その活動達成のため、第1段階では自治体が抱える人材育成の課題の抽出、人材育成のポイントやあり方などについて検討する。その成果も踏まえて、第2段階では金沢大学SIP北陸で構築された技術の習得の場を広く提供する。実践的な技術講習を行いながら、人材育成のシステム化を模索、提案する。

4月にフォーラム